【資料１－１】

成田市　地域公共交通計画　　自己評価シート（施策実施状況）

基本目標		施策		施策の実施状況（４年目）R7 これまでの取組み内容	課題、改善案など	今後の取組み予定
①	まちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成	①－1	まちづくり施策との連携	【成田市】 国及び県からの補助を受けて運行している京成バス千葉イーストの吉岡線（成田～佐原間）及びジェイアールバス関東の「多古本線」について、千葉県が主催する「千葉県バス対策地域協議会」にて、沿線市町とともにこれらの路線の運行継続に向け協議し、利用者の減少を防ぐための施策を実施した。 〇実施内容 ・成田佐原線：大栄みらい学園9年生に対し、卒業後の交通手段の参考として、成田佐原線、コミュニティバス（津富浦ルート）及び鉄道の時刻表を掲載したチラシを配布 ・多古本線：遠山中学校3年生に対し、卒業後の交通手段の参考として、多古本線、本城台線（京成バス千葉イースト）及びコミュニティバス（遠山ルート）の時刻表を掲載したチラシを配布 【ジェイアールバス関東(株)】 遠山地区においては、年々人口が増加しており、当社も需要に応じた増便を実施した。（令和8年4月1日） 【京成バス千葉イースト(株)】 ゼロカーボンシティに向けた取組として、昨年度に続き路線バス４両をEVバスに代替し、EVバスは前年度分と合わせ、計８両(成田営業所)となった。	【成田市】 沿線市町や交通事業者の運営努力のみでは路線の維持が困難であるため、引き続き地域公共交通確保維持事業を活用していく必要がある。 【ジェイアールバス関東(株)】 三里塚、寺台、国道51号における朝、夕の慢性的な道路渋滞で、折り返し時の休憩時間の確保が困難である。本来であれば、増車・増員による対応が望ましいが、「運転士不足」により運行本数の維持が困難であることが課題である。 【京成バス千葉イースト(株)】 車両価格と充電設備の整備費用が高額であり、増車の際には台数に応じて設備をさらに増強する必要があることから、用地の確保も必要になる。	【成田市】 地域間幹線系統確保維持計画策定時に寄せられた住民意見や、他市町の施策等を参考としつつ、路線を維持するための効果的な施策について検討していく。 【ジェイアールバス関東(株)】 運転士の確保。 【京成バス千葉イースト(株)】 状況を精査の上、増車を検討する。
		①－2	市街地周辺の利便性向上に向けた公共交通の検討	【ジェイアールバス関東(株)】 循環型バスは運行していない。 【京成バス千葉イースト(株)】 前年度にルート変更した「公津の杜駅～そよら成田～イオンモール成田線」は安定した利用があり、一部時刻改正の上、運行を継続している。	【京成バス千葉イースト(株)】 イオンモール構内～土屋交差点の渋滞により、公津方面行きが恒常的に遅延する。	【京成バス千葉イースト(株)】 左記路線は、かねてから検討課題である「市街地循環型バス」の役割を一部担っていると思われ、利用動向を見極めながら利便向上に向けた施策を講じる。
		①－3	コミュニティバスの再編	【成田市】 しもふさ循環ルートの見直しの方向性について、交通事業者や学識経験者と意見交換を行った。	【成田市】 〇遅れている理由：昨年度、地域住民等との意見交換の中で、見直しにあたっては、バス利用者だけでなく周辺住民の意見もうかがってほしいとの意見があった。再編にあたっては、地域住民への影響を把握したうえで進める必要があることから、令和8年度にアンケート調査により意向を把握し、実証実験に向けた課題を整理する。	【成田市】 しもふさ循環ルートの見直しについては、アンケート調査により住民の意向を把握するなどし、再編に向けた検討を行う。
②	ニーズに対応した運行形態の構築	②－１	オンデマンド交通の見直し	【成田市】 高齢者の通院や買い物のほか、気軽に外出できる機会を増やすための交通手段として、市全体の交通体系の中で持続可能な運行形態の検証を行い、現行利用者の需要に対応していくためにも、引き続きオンデマンド交通の実証実験を市内全域にて行った。 また、乗合率の向上に向けたゆとり時間の見直しなど、令和８年度に向けた運行の見直しを行った。	【成田市】 実証実験として長期にわたり継続されているが、高齢者の移動手段として定着しつつあり、市民からは更なる運行水準の向上が求められている。 事業を継続するため、交通事業者や関係各課との横断的な連携を深め、既存の公共交通との共存に配慮しながら、更なる検討を進めていく必要がある。 〇遅れている理由：昨年度、「ニュータウン地区内移動をダイヤ運行して変更する案」を含めた見直し案について検討を行ったが、課題点もあり、引き続きの検討事項としている。	【成田市】 これまでの実証結果と分析資料、市民や交通事業者等の意見を基に、実情を踏まえて見直しを進める。また、市全体の交通体系のなかで持続可能な運行形態の検証をするとともに、事業のあり方について検討を行う。
		②－２	交通空白地域解消のためのデマンド交通の導入	【成田市】 デマンド交通について説明会、視察等で情報収集を行った。	【成田市】 現在市で実施している福祉施策としてのオンデマンド交通やコミュニティバスの再編、民間の路線バスやタクシーへの影響を総合的に考慮しながら、導入検討を行う必要がある。 〇遅れている理由：コミバスの再編やオンデマンドの見直しと合わせて検討している。	【成田市】 オンデマンド交通の実証運行の検証と併せて、交通空白地におけるデマンド交通についても検討する。
		②－３	地域における輸送資源との連携の検討	【成田市】 スクールバスなど地域の輸送資源の活用について情報収集を行い、関係部署と情報共有を行った。 【市民】 地域でボランティア的に行っている送迎について、ライドシェアとして仕組みづくりを行い、地域の中で足に困っている人を地域で助けられる取組にできないか検討を行った。	【成田市】 実際に輸送資源の活用を行う場合は、関係機関との調整や、運行許可など課題が多い。	【成田市】 引き続き、関係機関と調整・協議を行いつつ、活用可能な輸送資源を模索する。 ライドシェアについては、交通事業者等とも調整して、導入を検討する地域の方々の移動の足が確保できるように取り組んでいきたい。 【市民】 市や事業者と協力して地域の移動の改善に向けて取り組んでいく。

【資料１－１】

成田市　地域公共交通計画　　自己評価シート（施策実施状況）

基本目標		施策		施策の実施状況（４年目）R7 これまでの取組み内容	課題、改善案など	今後の取組み予定
③	利用しやすい公共交通の環境整備	③－１	既存施設との連携も含めたバス待ち環境の改善	【成田市】 「ほこみち制度」を活用し、賑わい創出のため、成田ほこみち推進プロジェクトチームによって公津の杜駅前とJR成田駅前にスポンサーベンチ（二人掛け3基、三人掛け2基）の設置を行った。 【京成バス千葉イースト(株)】 発車時刻や乗換情報をGTFSデータ化し、Google・Yahoo!・ジョルダン・ナビタイムなどのサイトに提供しており、ダイヤ変更の際も即対応し、バス待ち時間の短縮に取り組んでいる。 施設では、成田ニュータウン地区のバス停の一部で上屋の修繕を実施した。	【京成バス千葉イースト(株)】 リアルタイムのバス位置情報や混雑状況データなどの提供ができれば、更なるバス待ち時間短縮へ繋がるものと考えられる。京成グループのバス事業者再編に伴い、令和8年4月1日より、グループ会社のホームページが統合されたことから、旅客への情報提供等も今後はグループ全体での対策が必要と思われる。	【京成バス千葉イースト(株)】 旅客への情報提供等は、今後、京成グループ全体での対策が必要と思われる。 また、JR成田駅西口市有地活性化事業に伴うバス乗り場周辺の整備に関し、関係部署との協議を継続する。
		③－２	ラストワンマイルの環境整備	【成田市】 グリーンスローモビリティを実際に運行している千葉市、四街道市へ訪問し、視察・試乗、意見交換を行った。また、愛知県春日井市の自動運転実証中のグリーンスローモビリティの視察へ参加した。	【成田市】 グリーンスローモビリティは、短・中距離移動目的の車両であり、輸送力も大きくない。狭い地域での運行となるため、既にある民間交通事業者との競合になることは考えにくいが、事業者との調整と、現実的に効果が発揮される地域の選定が課題である。 〇遅れている理由：導入するモビリティの選定、情報収集に時間を要しているため。	【成田市】 令和8年度、市内のイベントにてグリーンスローモビリティの試乗体験会を実施し周知を図る。また、公道走行の実証実験を行い、実際の運行に向けて検討を行う。
		③－３	新たな交通結節点における環境整備		【ジェイアールバス関東(株)】 遠山地区の人口が年々増加していることからも三里塚を交通結節点とする環境整備が必要と思われる。 【京成バス千葉イースト(株)】 成田空港の機能強化、ワンターミナル化に伴う鉄道駅の再編計画と連携して、成田空港が陸上交通の結節点としての役割も担えるよう、バス乗り場の整備に向けた協議を進める必要がある。	【ジェイアールバス関東(株)】 当社が所有する三里塚バス停の可能性を検討する。また、日常的に渋滞が発生していることからも、この地点の道路インフラ改善は必須であると考える。
		③－４	利用しやすく、乗りやすいバリアフリーに配慮した環境づくり	【ジェイアールバス関東(株)】 車両の状態や使用年数等を勘案したうえで、主に中古車両を購入し、計画的に入替を実施している。 【京成バス千葉イースト(株)】 路線バス代替時におけるノンステップバス導入及び行先表示器のフルカラーLED化、車内の停留所名・運賃表示器の大型カラー画面への切り替えを引き続き推進中。 令和８年３月末現在、成田、多古、成田空港営業所の乗合車両は、83両がノンステップバスで運行(うち１０両は成田市コミュニティバス)。	【ジェイアールバス関東(株)】 中古市場におけるノンステップバスの流通が少ない。	【ジェイアールバス関東(株)】 引き続き、市場の動向を注視して、ノンステップバスの導入が進むよう担当部署に働き掛ける。 【京成バス千葉イースト(株)】 これまでの取組みを引き続き推進する。
		③－５	親しみやすい環境づくり	【成田市】 成田市交通安全ポスター展の特別賞受賞作品を、コミュニティバス全車両の車内に掲示したほか、庁内各課から依頼のあった市政情報やイベントに関するポスターも掲示し、コミュニティバスを地域の広報媒体として活用した。 地域のバスとして親しみやすさを持ってもらうため、産業まつりにて車両の展示、試乗を行っている。	【成田市】 人件費や燃料費等の運行経費が継続的に上昇していることから、車両ラッピング広告やバス停ネーミングライツなど、運賃以外の収入源を確保する施策についても検討が必要。	【成田市】 引き続き交通安全ポスターの掲示を行うとともに、車両ラッピング広告等の導入の可能性について検討する。 通学定期券にうなりくんのイラストを取り入れるなど、親しみやすいデザインを検討する。

【資料１－１】

成田市　地域公共交通計画　　自己評価シート（施策実施状況）

基本目標		施策		施策の実施状況（４年目）R7 これまでの取組み内容	課題、改善案など	今後の取組み予定
④	利用促進に係るサービスの充実	④－１	路線バスとコミュニティバスの連携	【成田市】 遠山ルートの路線競合の改善に向けて協議を行った。 【京成バス千葉イースト(株)】 コミュニティバスの再編について、市と継続協議中	【成田市】 遠山ルートの運行について、運行ルートや運賃等の見直しが必要。 【ジェイアールバス関東(株)】 ・路線バスとコミュニティバスの運行区間の重複 ・運賃格差	【成田市】 引き続き事業者と運行の適正化について協議していく。 【ジェイアールバス関東(株)】 市民に根付いている遠山ルートは、廃止することが難しいと考えるため、運賃格差の是正を求めていきたい。
		④－２	運転免許証自主返納支援の促進に向けた検討	【成田市】 令和4年7月から、高齢者の運転免許証の自主返納及び公共交通機関の利用を促進し、高齢者が加害者となる交通事故の抑止を図ることを目的として、運転免許証を自主返納された70歳以上の市民の方に対し、申請により1万円相当の交通系ICカード（無記名式PASMO）を給付する事業を開始。令和7年度は349名の方に給付を行った。 【京成バス千葉イースト(株)】 京成グループの「ノーカーアシスト優待証」を発行 対象：70歳以上で運転免許証を返納し、「運転経歴証明書」又は「マイナ経歴証明書」の交付を１年以内に受けた方(交付後１年以内に70歳になる方も含む) 有効期間：発行月から２年間(更新なし) 割引内容：京成グループ４社の路線バスの運賃が半額(現金、ICカード支払い)	【成田市】 本事業は、高齢者の運転免許証の自主返納を促進し、高齢者が加害者となる交通事故の抑止を図ることを目的としており、1万円相当の交通系ICカードの給付は1回限りであることから、運転免許証返納者に継続して公共交通を利用していただくために、他の施策を検討する必要がある。 【ジェイアールバス関東(株)】 交通弱者への対策として必要な施策であることは認識している。しかしながら、本施策の導入は減収につながる可能性があるため、自治体の協力なくしては現時点での導入は難しいと考える。	【成田市】 今後も本事業を継続し、高齢者の運転免許証の自主返納の促進を図る。 【ジェイアールバス関東(株)】 本施策については、自治体が中心となって推進していただきたいと考える。 【京成バス千葉イースト(株)】 今後も継続して左記サービスの提供を行う。 また、高齢者に対するサービスとして、令和8年4月1日より、65歳以上、70歳以上を対象とした、京成バス千葉イーストの一般路線バスが乗り放題となる「ゴールドパス」や、京成バスグループ４社の一般路線バスが乗り放題となる「ダイヤモンドパス」の取扱いを開始する。
		④－３	地域等との協働による利用促進	【京成バス千葉イースト(株)】 成田空港ならびに、成田市さくらの山公園を含む周辺エリアの観光施設を巡る空港循環路線「そらまる線」を運行し、沿線観光施設と連携し、各施設の特典付き周遊乗車券「そらまるきっぷ」も販売している。利用促進のため各種イベントに出展し、パンフレット配布など利用促進も継続的に行っている。	【京成バス千葉イースト(株)】 遠方からのお客様への認知度を向上させ、更にご利用者数を増やしたい。	【京成バス千葉イースト(株)】 都内エリアを中心とした首都圏の方々に対して、成田空港周辺エリアの観光資源・施設の認知度向上を目的とし、鉄道会社の京成電鉄とも連携して、企画乗車券の内容を見直しながら販売・プロモーション強化を図りたい。
⑤	公共交通の利用に向けた意識啓発の実施	⑤－１	バスの乗り方教室及びバスツアーの実施			【ジェイアールバス関東(株)】 多古町においては、今年バスの乗り方教室や多古本線開通100年を記念したバスツアーを実施したが、成田市では、過去数年開催した記録がないことから、機会があれば参加したい。
		⑤－２	公共交通利用に向けた意識啓発	【成田市】 成田市産業まつりにおいて、公共交通PRブースを出展し、コミュニティバスの展示やチラシなどの啓発物資を配布するとともに、公共交通に関するアンケートを実施し、公共交通への関心を高めてもらうための啓発活動を行った。 【ジェイアールバス関東(株)】 多古本線を利用する学生の多くが成田市内から成田市外（主に匝瑳市など）であることから、入学説明会などで時刻表やバス定期の案内を配布している。 【京成バス千葉イースト(株)】 市の産業まつりでの出展ブースにてコミュニティバスの展示、公共交通利用促進のPRに協力した。 【市民】 産業まつりにおいてコミュニティバスの展示やアンケート回答に参加し公共交通への関心を深めた。	【成田市】 当日の天候不良により来場者が例年と比較して少なかったことから、啓発を行う機会を増やす必要がある。 【ジェイアールバス関東(株)】 限られた人員のなかで必要とされる箇所に回りきれなかった。	【成田市】 産業まつり以外の啓発活動の場として、令和8年度には健康・福祉まつりにおいても出展を行う予定であったが、台風の影響で中止となった。今後も産業まつり以外の啓発の機会を検討する。 【ジェイアールバス関東(株)】 ・運転士の確保や整備士の確保に繋がる意識啓発の機会を検討する。
		⑤－３	教育機関や高齢者団体との連携	【成田市】 高校進学時に通学でバスを利用する可能性の高い遠山中学校3年生及び大栄みらい学園9年生に対し、卒業後の交通手段の参考として、多古本線・本城台線とコミバス遠山ルート、成田佐原線とコミバス津富浦ルート、の時刻表を掲載したチラシをそれぞれに配布し、公共交通利用の意識啓発を行った。	【成田市】 バスの利用促進のみならず、既に利用している方の安全利用に関する意識啓発も行っていく必要がある。 【ジェイアールバス関東(株)】 沿線の学校と関係を築く。	【成田市】 交通事業者と意見交換を行いつつ、乗車時の事故防止や乗車マナー等に関する意識啓発も行っていく。 【ジェイアールバス関東(株)】 お客さまの取り込みは重要であると考えるため、高齢者や児童生徒を対象としたイベント等に機会があれば参加したい。

【資料１－１】

成田市　地域公共交通計画　　自己評価シート（施策実施状況）

				施策の実施状況（４年目）R7		
基本目標		施策		これまでの取組み内容	課題、改善案など	今後の取組み予定
⑥	誰もがわかりやすい情報提供の推進	⑥－１	デジタル化も含めた公共交通マップの作成	【成田市】 日本語版と英語版の「成田市総合公共交通マップ」を作成し、HPで公開している。 【京成バス千葉イースト(株)】 GTFSデータを、複数の検索サイトや乗換案内サイトに提供している。	【成田市】 現時点では公共交通マップの更新を予定していないが、コミュニティバスや路線バスの運行内容に変更が生じることで、掲載している情報が現状に合わなくなる可能性がある。	【成田市】 公共交通マップの更新を検討する。 【京成バス千葉イースト(株)】 今後もダイヤ改正や運賃改定等の情報を随時更新し、情報提供を継続する。
		⑥－２	ICTによる情報発信	【成田市】 コミュニティバスのGTFSデータを公開し、同時にgoogleマップでも検索できるようにした。 【京成バス千葉イースト(株)】 発車時刻表や乗換情報のGTFSデータを、Google・Yahoo!・ジョルダン・ナビタイムなどのサイトに提供しており、ダイヤ変更の際も即対応し、バス待ち時間の短縮を継続して図っている。 ホームページに関しては、令和7年4月1日にグループ会社の合併の第１段階が終了後も令和7年度内は旧会社単位で運営していたが、スマートフォンからのアクセス比率が高いことを踏まえ、モバイル端末での見易さ・操作のしやすさをより重視し、改善した。		【成田市】 今後コミュニティバスのダイヤやルートの変更があった際は、迅速にオープンデータとGoogle登録情報の更新を行う。 【京成バス千葉イースト(株)】 令和8年4月1日、グループ会社合併の第２段階が完了したのに合わせ、旧会社のホームページが廃止され、京成バスグループの新しいホームページの運用が開始された。今後、関係部署と連携し、適切かつ迅速な情報発信に努める。
		⑥－３	新しい生活様式への対応の検討	－	－	【成田市】 今後においても、社会経済情勢に即した対応や検討を速やかに行う。
		⑥－４	MaaSや自動運転等の新技術の情報収集・検討	【京成バス千葉イースト(株)】 千葉市内の営業所が、千葉市の自動運転バス実証実験(レベル２)に協力した。	【成田市】 新技術については、交通事業者の協力が不可欠であり、実施するにあたっての設備投資などを見据えて、実現性や実行性のある方法について、交通事業者と共に検討する必要がある。	【成田市】 国や県、先進自治体、民間企業のサービスなどを注視し、説明会などに積極的に参加しながら引き続き情報収集を行い、地域ニーズや実状に沿ったサービスについて検討していく。